

第 104 回日本消化器病学会九州支部例会

会長 村上 和成（大分大学医学部消化器内科学講座）

第 98 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

会長 有田 毅（医療法人八宏会有田胃腸病院）

合同開催のご案内

会期：平成 26 年 12 月 5 日（金）・6 日（土）

会場：大分オアシスタワーホテル（〒870-0029 大分市高砂町 2-48 TEL：097-533-4411）

ソレイユ（〒870-0035 大分市中央町 4-2-5 TEL：097-533-1121）

■ テーマ：消化器病・消化器内視鏡診療の現状と展望

■ 特別講演

1. 胆膵内視鏡の魅力(消化器病学会)

演者： 藤田 直孝（仙台市医療センター仙台オープン病院消化器内科）

司会： 村上 和成（大分大学医学部消化器内科学講座）

2. 胃拡大内視鏡による早期胃癌の診断(内視鏡学会)

演者： 八尾 建史（福岡大学筑紫病院内視鏡部）

司会： 有田 毅（医療法人八宏会有田胃腸病院）

■ 教育講演

1. 腸内細菌と臓器相関(消化器病学会)

演者： 安藤 朗（滋賀医科大学大学院医学研究科感染応答・免疫調節部門）

司会： 佐田 通夫（久留米大学医学部先端癌治療研究センター）

2. 早期大腸癌の診断と治療(内視鏡学会)

演者： 鶴田 修（久留米大学医学部消化器病センター）

司会： 松井 敏幸（福岡大学筑紫病院消化器内科）

■ シンポジウム(公募)

1. 消化管 ESD の合併症とその対策(内視鏡学会)

司会： 山口 直之（長崎大学病院光学医療診療部（消化器内科））

野崎 良一（医療法人社団高野会高野病院消化器内科）

ESD は、咽頭・食道から大腸までの早期消化管癌に対して外科手術に匹敵する優れた治療効果を発揮することが明らかになり、現在ではその有用性が認知され、全国的に広く普及しています。しかしながら、各臓器特有の合併症も存在し、その克服が、さらなる ESD の発展につながるものと思われます。

食道 ESD においては、術後狭窄対策が最大の課題であり、十二指腸及び大腸 ESD においては、術中穿孔や遅発性穿孔の頻度が高く、その対策が必要となります。

また、2012 年 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドラインが作成され、今後は ESD においても抗血栓薬の継続または中止を適切に判断することが必要な時代になってきました。しかし、抗血小板薬内服継続下及び抗凝固薬・ヘパリン置換法下 ESD においては、出血合併症、特に後出血の頻度が高まることが予想され、新たな後出血対策が必要と思われます。

そこで、本シンポジウムでは今後の ESD のさらなる発展のため避けては通れない偶発症に関して、その実態と克服方法について論じたいと思います。消化管 ESD について幅広く演題を募集いたします。

2. ウイルス肝炎治療の残された課題と対策(消化器病学会)

司会： 本田 浩一 (大分大学医学部附属病院消化器内科)

古庄 憲浩 (九州大学病院総合診療科)

抗ウイルス療法の進歩により、ウイルス性肝炎に対する治療成績は、近年飛躍的に向上している。しかしながら、B型肝炎においては、核酸アナログ治療後の発癌、インターフェロン療法の位置付け、C型肝炎においては、インターフェロン療法難治例、治療困難例(高齢者、血小板減少例、線維化進行例、透析患者など)に対する抗ウイルス療法など、今後、解明、解決すべき様々な問題点が存在する。本シンポジウムではウイルス性肝炎に関して幅広く演題を募り、今後の課題について議論したい。

3. *H. pylori* 除菌治療の実際と問題点(消化器病学会)

司会： 兒玉 雅明 (大分大学医学部消化器内科学講座)

中村 昌太郎 (九州大学先端医療イノベーションセンター)

2013年2月より *H. pylori* 感染胃炎に対する除菌治療の保険適用が認可され、日常診療で除菌を行う症例が大幅に増加している。その一方で、除菌に関連した種々の問題点も指摘されている。本シンポジウムでは、感染診断における検査法の選択、2次除菌不成功例に対する3次除菌法、除菌困難例の対処法、除菌後の胃粘膜変化、除菌後胃癌の予防および早期発見にむけた経過観察法、MALTリンパ腫の診断・治療等に関する演題を幅広く募り、現時点における *H. pylori* 除菌に関する問題点を整理し、今後の診療の一助としたい。

■ワークショップ(公募)

1. 治療に難渋するIBD症例の戦略(消化器病学会)

司会： 光山 慶一 (久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門炎症性腸疾患センター)

山本 章二郎 (宮崎大学医学部内科学講座消化器血液学分野)

厚労省研究班で作成された治療指針・ガイドラインや、抗TNF- α 抗体製剤をはじめとする新たな治療法の登場により、炎症性腸疾患(IBD)の治療は飛躍的に進歩し、患者のQOLは確実に向上しつつある。しかし、様々な治療を駆使しても治療に難渋するIBD症例も少なくない。

クローン病(CD)では抗TNF- α 抗体製剤の二次無効例があり、潰瘍性大腸炎(UC)ではステロイド抵抗・依存例での抗TNF- α 抗体製剤や免疫調節剤の不应例・不耐例などがあげられる。CD術後の短腸症候群や、UC術後の回腸囊炎、UCに合併する胃十二指腸病変、IBDの腸管外合併症に対する治療に難渋することも稀ではない。本邦のIBD患者数は年々増加傾向にあり、今後このような症例に遭遇する機会が増えてくることが予想される。

本ワークショップでは、治療に難渋するIBD症例に対して、どのような治療を実施しているのか、各施設での戦略を御発表いただきたい。治療に難渋するIBD症例の特徴や難治に陥らないための工夫、難治例に対し適切な治療を行うために何が大切か、などもあわせて御提示いただきたい。

2. 生活習慣病と肝臓病:現状と展望(消化器病学会)

司会： 川口 巧 (久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門)

市川 辰樹 (長崎大学病院消化器内科)

肥満、糖・脂質代謝異常などの生活習慣病は肝臓病の発症や病期進展に深く関わる。また、近年、筋肉量の減少(サルコペニア)は、生活習慣病のリスクを高めるだけでなく、肝疾患患者のQOLや予後に関与する新たな病態として注目されている。そのような背景を踏まえて、本ワークショップでは、生活習慣病と肝臓病の関連やアルコール性/非アルコール性肝障害に対する取り組みなど各施設の現状をご発表頂きたい。その上で、現在の問題点を共有するとともに、今後の展望について議論したい。

3. 消化管 GIST の診断と治療(内視鏡学会)

司会： 赤星 和也 (麻生飯塚病院消化器内科)

猪股 雅史 (大分大学医学部消化器・小児外科学講座)

イマチニブをはじめ新規分子標的薬の導入によって、進行 GIST の予後は向上してきたが、根治はまだまだ困難な状況である。現在 GIST の根治を期待できる唯一の方法は早期診断早期外科切除のみである。しかし GIST は粘膜下腫瘍の形態をとり、通常の内視鏡下生検では確定診断は困難である。胃でよく遭遇する無症状の小型 GIST の何処までを治療対象とし、その診断には何が適切か議論の多い所でもある。また、小型 GIST は内視鏡外科手術の適応と考えられているが、適応や方法は必ずしも一定でなく、その治療成績も十分明らかにされていない。本セッションでは、GIST の早期診断早期治療に関する実地臨床に於ける成績と成績向上を目指した取り組みを示して頂き、今後の方向性を議論したい。

4. 膵仮性嚢胞をめぐる諸問題(内視鏡学会)

司会： 岡部 義信 (久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門)

大塚 隆生 (九州大学大学院臨床・腫瘍外科)

内視鏡手技の進歩に伴い膵仮性嚢胞に対する治療も多様化し、2009 年には膵仮性嚢胞の内視鏡治療ガイドラインが纏められ活用されている。自然治癒が期待できない膵仮性嚢胞には内視鏡的(経乳頭的、超音波内視鏡下)あるいは経皮的ドレナージ術などの内科的治療が第一に考慮され、内科的治療困難例に外科的治療(嚢胞消化管内瘻術、膵切除術、外瘻術)が行われる。侵襲面では内科的治療が優れるが、ドレナージ効果は外科的治療が高く、最近では低侵襲な腹腔鏡下手術も行われている。一方、あるいは無症候性膵仮性嚢胞では膵嚢胞性腫瘍や膵癌に併存するものとの鑑別がしばしば問題となる。本ワークショップでは膵仮性嚢胞の診断・治療の諸問題に関する演題について、内科、外科でディスカッションし情報を共有できればと考えている。多くの演題応募を期待する。

■ 消化器病学会九州支部専門医セミナー(症例検討)

1.消化管

司会： 中村 和彦 (九州大学大学院医学研究院病態制御内科学)

コメンター： 磯本 一 (長崎大学病院光学医療診療部)

コメンター： 安部 高志 (大分県厚生連鶴見病院消化器内科)

病理コメンター： 岩下 明德 (福岡大学筑紫病院病理部)

2.肝

司会： 井出 達也 (久留米大学医学部消化器内科)

コメンター： 清家 正隆 (大分大学医学部消化器内科)

コメンター： 永田 賢治 (宮崎大学医学部附属病院肝疾患センター)

病理コメンター： 秋葉 純 (久留米大学医学部医学科病理学講座)

■ 第 6 回釜山-九州 GI Endoscopy Symposium 2014

■ 一般演題(公募)

■ 専修医発表・研修医発表(公募)

※ 演題は、シンポジウム、ワークショップ、一般演題、専修医発表、研修医発表を募集します。

※ 演題は、ホームページからのお申し込みのみとなります。

※ 消化器病学会と内視鏡学会では、演題登録画面が異なります。詳細につきましては、下記 URL から演題募集要項をご確認ください。(7 月中旬頃掲載予定)

演題募集期間：平成 26 年 8 月 6 日(水)～9 月 3 日(水) 正午

支部例会ホームページ URL：<http://g104-e98.umin.jp/>

■第 66 回九州消化器内視鏡技師研究会のご案内

期日：平成 26 年 12 月 6 日（土）9:00～16:00 予定（受付開始 8:00 予定）

内容：①第67回 内視鏡機器取り扱い等講習会（基礎編）

②教育講演

③サテライトシンポジウム・ランチョンセミナー

④一般演題

会場：iichiko 総合文化センター（iichiko グランシアタ）

大分県大分市高砂町 2 番 33 号 OASIS ひろば 21 内 TEL：097-533-4000

医師当番世話人：永井 敬之（大分県厚生連鶴見病院）

技師当番世話人：中村志津子（有田胃腸病院内視鏡室）

九州消化器内視鏡技師会会長：平田 敦美（久留米大学消化器病センター）

お問い合わせ先：医療法人八宏会 有田胃腸病院 内視鏡室 中村 志津子

〒870-0924 大分県大分市牧 1 丁目 2 番 6 号

TEL：097-556-1772 FAX：097-556-1778

E-mail：arita-ikyoku@arita-hp.or.jp

九州消化器内視鏡技師会 ホームページ <http://www.jgets-k.com/>

■お問い合わせ先

第 104 回 日本消化器病学会九州支部例会事務局

大分大学医学部消化器内科学講座

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1 TEL：097-586-6193 FAX：097-586-6194

第 98 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会事務局

医療法人八宏会有田胃腸病院

〒870-0924 大分県大分市牧 1-2-6 TEL：097-556-1772 FAX：097-556-1778

合同運営事務局

株式会社インターグループ九州支社

〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-38 協和ビル 7F TEL：092-712-9530 FAX：092-712-9533

E-mail：g104-e98@intergroup.co.jp